

謝罪と訂正を要求産経の「横流し」デマ報道/輸入元など朝・日関係者

産経新聞が17日付朝刊1面トップで、青森県の養鶏業者が共和国を經由して中国からトウモロコシを輸入した事実を、あたかも共和国が水害支援物資を横流したかのように報じた問題で、輸入元などの関係者が22日、東京・大手町の産経新聞東京本社に抗議に訪れ、謝罪と訂正記事の掲載を申し入れた。

トウモロコシは、中国・吉林省から共和国の清津を経て日本の青森港に至るルートで輸送されたもの。中国産であることを示す原産地証明書などの証拠書類もあり、産経の記事がでっち上げであることがすでに明らかになっている。

この日、抗議に訪れたのは輸入元である常磐村養鶏農協の石澤直士理事、仲介した横浜の商社、有限会社チョー照の張徳部長と、朝・日輸出入商社の金永浩専務らで、事実無根の記事が商取引に悪影響を与えたとして、厳重に抗議した。

応対に出た社会部の名雪雅夫、大倉明の両次長は抗議に対し、「見出しは『支援、横流し?』となっており、『?』を付けた」などと弁明した。こうした態度は、この記事が単なる誤報ではなく、意図的に作られた謀略記事であることを示している。

しかし産経側は、原産地証明書や原料および製品分析結果報告書、清津でのトウモロコシ検品作業時の写真などの証拠が提示されると、しばし黙り込んだ後、要求に対し、調査の上で回答したいと述べた。

地元紙は遺憾表明

一方、産経の後を受けて18日付に同様の記事を掲載した青森県の陸奥新報は総聯県本部からの抗議を受け、正しい内容の記事を19日付1面に掲載。「誤解を招きかねないような報道となったことを遺憾に思います」とする経過説明書を同本部に寄せた。